

インドネシア水道に係る情報収集 No. 200501-3J

検索サイト	Google	実施日	2020/05/01	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア AND 水環境」で検索（「インドネシア の 水環境」と表示される）					
URL： https://www.global-marketing-labo.jp/column/?id=1559032610-836775					
<p> 標題： インドネシアの水質汚染と石炭採掘～マハカム川を例に グローバル マーケティング ラボ、各国情勢コラム、2019年5月 </p>					
<p> インドネシア・東カリマンタン州の州都、サマリダ市を流れるマハカム川は、カリマンタン島（ボルネオ島）を代表する大河。マハカム川は東カリマンタン州で流域面積が最も大きい河川であり、その流域からは石油や天然ガス、石炭、パーム油、木材などの資源が豊富に産出される。 </p> <p> 近年、マハカム川も産業排水や生活排水により水質汚染が深刻化している。川岸などでのゴミの「ポイ捨て」や産業廃棄物の垂れ流しといった同国国内共通の要因以外に、マハカム川独特の事情として、河川流域の近くに炭鉱が密集し、石炭採掘が行われていることが挙げられる。環境保護団体のグリーンピースやWaterkeep Allianceなどの団体によると、マハカム川近くの炭鉱から排出される坑廃水のほとんどは酸性で、かつ金属を多く含んでいることから、被害を自然環境や農業活動に与えている。 </p> <p> 一方で、インドネシア政府はこのような環境問題解決に向け、関連法令・規定の導入を推進しているが、このような関連法令・規定は規制がそもそも不十分であったり、法令・規定間で矛盾が生じていたりするため、問題点が多いと環境団体は指摘する。 </p> <p> インドネシアは世界最大の石炭輸出国であり、石炭採掘場が密集する東カリマンタン州や南カリマンタン州、南スマトラ州などにとって、石炭採掘業は地域経済の柱となっている。持続的に地域経済を発展させていくためには、採掘活動を一方的に制限するのではなく、採掘を始めとする生産活動と環境保護の両立を実現させることがより重要だといえる。今後、家庭向けやその他の産業においても污水处理技術の市場は成長することが見込まれ、とくに(重)金属除去技術や脱塩(イオン)技術、粘土/ポリエチレン膜による雨水浸透防水技術といった関連技術は炭鉱地区などで活躍できるポテンシャルが高い。 </p>					
備考 民間市場調査会社のレポートである。					